



登校しても教科の授業はほとんどなくて勤労働員ばかりだったこと、閉鎖的な日常生活のちょっとしたひと時を大切に
にした様子、玉音放送に衝撃を受け混乱したこと、そういう状態に今後の方向性を示唆してくれた恩師との対話など、
80年前の夏～秋に書かれた越ヶ谷高等女学校生徒の日記に記されています。『越谷から見た近代教育150年』所収

伝えられてきた民俗行事

地域の古来の祭などの行事は暦の二十四節気などと密接に関わるものが多かったようです。今号では埼玉県無形
民俗文化財に指定されている市内の2つの行事の様子をご紹介します。

獅子舞

先月20日に下間久里地区で行われたのは三頭立ての獅子舞です。獅子舞
は全国各地で行われていますが、その時期と地域によって目的が異なります。
五穀豊穡(豊作)、雨乞い、疫病退散、風除け、厄除け、地鎮などです。下間久里
では**厄除け、悪魔・疫病を追い払う**ことを祈念して舞われます。

言い伝えによれば**文禄3年(1594年)に京都から下ってきた一座**が当地に居を定めて舞を
伝えたとのことですから、中世の、遅くとも戦国期・**安土桃山文化の香り**を運んできているので
しょう。現在、日本を代表する伝統文化の茶道、能楽や狂言、歌舞伎などはこの中世後半～安
土桃山時代に起源があります。下間久里の3頭の獅子頭も古いタイプの**竜頭形**です。関東、特
に利根川水系に多いタイプとのこと。『埼玉県民俗芸能誌』等による)

獅子頭の形

(2つの型を一般化)

上: 竜頭形(古いタイプ)

下: 獅子形



をもって悪魔を追い出す“辻切り”を舞います。



行いました。各家では「地固め」などを舞って厄払いをします。夜
になり、最後は旧村境で白刃



例大祭当日は地域の
香取神社で舞を奉納し
た後、旧下間久里村の
家々を回る「村回り」を

虫追い

7月24日は北川崎地区に伝わる虫追いの行事がありました。農薬が使われるよう
になる以前、稲につく害虫を駆除するために村々で行われていましたが、現在では
諸般の事情によってその実施が少なくなりました。

本番に先立って7月5日に川崎神社境内で松明作りが行われました。竹棒を芯
にして、麦わらを巻き付けて作る体験に子どもたちも参加しました。

新方公民館では無形民俗文化財継
承講座「北川崎の虫追い体験」を実
施して、地域の経験者から子供たちへ
とつなげる活動をしています。

松明は大きいもので約4m。30cm間隔で縛った
縄の結び目は同じ側にあります。燃えて短くなっ
ていくにつれて、上から結びをほどいていきます。



以前はこの地域でも麦を栽培していましたが、現在では県北東部の麦作農家と契約して、軽トラック5台分の麦わらを運んで来るそうです。“虫追い”に寄せる地域の方々の言葉を紹介します。

昭和50年頃、麦わらがなくなって、空き缶にろうそくでやった。虫追いがなくなりそうでした。



農薬がたくさん使われる前は、虫追いの翌朝の田んぼには、虫がいっぱい落ちてたなあ。



伝統行事の継承は全国各地で課題となっています。下間久里の獅子舞も北川崎の虫追いも同様です。かつて封建制下、先人たちは共同作業や相互扶助によって厳しい自然環境と田畑耕作、疫病を乗り越えてきました。そのことがこれらの行事には込められているようです。その思いが継承の原動力の一つになっているのではないのでしょうか。

“文化”の継承は損得勘定ではダメで、みんなに賛同してもらえないようにしていかなければならないんです。
(令和元年、60歳代の方の言葉)



“今、自分に何ができるか・・・”

展示「浅間山噴火と越谷」のアンケートより

防災フェス(5月24・25日)に始まり、その後7月12～18日に市役所でも行われたパネル展示『浅間山噴火と越谷』には多くの方々にご来場いただきました。孺恋郷土資料館の館長様にもご高覧いただきました。有難うございました。アンケートにもたくさんご協力頂きました。その一部をご紹介します。**驚きと共に現代社会やご自分と重ね合わせて**考えた方も多かったです。

- ◆浅間山の噴火が越谷にも被害を及ぼしていたと想像したこともなかった。(66～75歳 市内 他にも多々)
- ◆「この困難に加わろうと思う」という(被害を受けた旧鎌原村の隣村に住んでいた)小兵庫さんの言葉が心に沁みました。自分に何ができるかを考える良い機会になりました。(56～65歳 市外から)
- ◆日本の歴史、住んでいる越谷の歴史を知ること、今の世の中にどう繋がるか。子供たちにも繋げていって欲しいと思いました。(46～55歳 市内)
- ◆(展示の最後に)富士山のこともあり、より身近に感じられて良かった。(66～75歳 市外から)
- ◆(鎌原村復興)人間同士の想像力は強いなと感じます。そんな想像力は今の私達にも残っているのでしょうか。(46～55歳 市内)
- ◆かざんがふんかしてほしくないなーっておもった。(小学生 市内)
- ◆ひとがかわいそうでした。(小学生未満 県外から)
- ◆生き残ったのが93人で、夫を失った女には妻を失った男を組み合わせられていたと知り、少しきもんに思った。でも本人が幸せならいいと思った。(中学生 市内)

展示パネルは下のQRから
(越谷市デジタルアーカイブ)



また、会場スペースと動線、実物展示、内容量(もっと詳しく)、資料館建設等のご要望、スタッフへの感謝や励ましも頂戴しました。合わせて御礼申し上げます。今回の展示パネルは、越谷市デジタルアーカイブで公開中です。